いと考えている。

C—11　ユニホームについて（実態調査）

椙山女学園大家政　○安田　盈子
吉田　俊恵
名古屋女大家政　荻野千鶴子
東海学園女短大　西条　セツ

1.　衣生活の向上は，服種，デザイン，素材等について目ざましい進歩発展しているが，職場における女子の着用しているユニホームの現状実態をとらえ，更にユニホームの理想とはどんな条件をそなえるべきか，将来のユニホームについて検討してみることにした。

2.　始め調査対象になる会社を訪問して，ユニホームに対する意見を調査し，更に女子従業員の作業現場における作業の実態を観察検討のうえ，つぎの要項により会社及び従業員に調査を依頼し，これを集計した。

1)　調査時期は昭和42年7月～9月。

2)　対象は愛知，岐阜，三重の3県下にある会社のうち，9社をえらんだ。

3)　会社の種類は，A，衣料関係，B，衣料加工，C食品関係，D，機械製作の4種類である。

4)　調査内容は，会社・個人ともに，基礎調査，職場環境，現在着用のユニホームについて，将来のユニホームに望むこと。

3.　1)調査した女子従業員は現場，事務方面ともに，20代～10代と多く30歳以上の年齢層は少なく，90%が未婚者であった。

2)　現在着用しているユニホームに対して，会社側では能率向上は勿論のこと，経営上従業員確保のため考慮している点が多く，また個人的には個性流行を考え，更に機能的方面からの意見をもって着用している人が多く，産業推進に結びついて，この方面の研究をすすめた